



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月8日

上場会社名 アルフレッサホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2784 URL https://www.alfresa.com/

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 荒川 隆治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 専務執行役員

(氏名) 岸田 誠一 (TEL) 03-5219-5102

総務・財務・コーポレートコミュニケーション・コンプライアンス担当

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	1,985,463	△3.8	14,865	△57.0	23,430	△43.6	19,084	△31.8
2020年3月期第3四半期	2,062,854	3.0	34,544	△5.5	41,544	△6.6	27,995	△18.9

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 18,949百万円(△51.3%) 2020年3月期第3四半期 38,903百万円(59.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	90.16	-
2020年3月期第3四半期	132.26	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	1,422,275	481,789	33.9
2020年3月期	1,351,619	474,898	35.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 481,549百万円 2020年3月期 473,702百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	25.00	-	25.00	50.00
2021年3月期	-	26.00	-	-	-
2021年3月期(予想)	-	-	-	27.00	53.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,631,000	△2.5	20,900	△56.1	31,300	△45.3	19,600	△51.3	92.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	235,017,600株	2020年3月期	235,017,600株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	23,344,617株	2020年3月期	23,344,229株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	211,673,162株	2020年3月期3Q	211,674,055株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループでは、2019年5月に策定した「19-21中期経営計画 さらなる成長への挑戦 ～健康とともに、地域とともに～」(以下「19-21中計」という。)に掲げたグループ経営方針「グループ連携体制の構築」「事業モデルの変革」「地域の人々の健康への貢献」「さらなる生産性の向上」「人づくり」に引き続き取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の流行が続くなか、当社グループでは、生命関連商品を取り扱う社会インフラとしての使命を果たすべく、感染拡大防止の対策を行うとともに、お取引先様および当社グループ従業員の安全を確保しながら医薬品等の安定供給に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高1兆9,854億63百万円(前年同期比3.8%減)、営業利益148億65百万円(同57.0%減)、経常利益234億30百万円(同43.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益190億84百万円(同31.8%減)となりました。

なお、連結子会社のアルフレッサ株式会社(本社：東京都千代田区、以下「アルフレッサ」という。)が、2020年12月、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)を発注者とする医療用医薬品の入札における独占禁止法違反容疑で、東京地方検察庁より起訴されました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

① 医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品等卸売事業におきましては、2019年10月と2020年4月の二度の薬価改定および新型コロナウイルス感染拡大に伴う医療機関における患者様の外来受診抑制や手術件数の減少等の影響により市場は縮小しており、厳しい事業環境で推移いたしました。また、お得意先様を取り巻く経済状況の悪化に伴い納入価格交渉が厳しくなっていることや、医療機関への訪問規制によりプロモーション活動が制限されていることも当社グループの業績に影響を及ぼしております。このようななか、当社グループでは、感染予防に十分配慮しながら医薬品の安定供給を最優先に事業活動を行っております。

当社グループは、医療用医薬品NO.1卸^{*1}として勝ち続けるために「19-21中計」の重点施策として掲げた「MS機能のさらなる進化」「スペシャリティ商品への注力」「グループ物流の高度化、効率化と標準化」に引き続き取り組んでおります。

「グループ物流の高度化、効率化と標準化」への取り組みとして、アルフレッサは、2020年7月、ヤマトホールディングス株式会社(本社：東京都中央区)の連結子会社であるヤマトロジスティクス株式会社(本社：東京都中央区)と、医療用医薬品、一般用医薬品、医療機器、医療材料および診断薬等の「ヘルスケア商品」の共同配送スキームの構築に向けた業務提携契約を締結いたしました。これにより、ヘルスケア商品の配送業務効率化および配送能力増強を目指しております。

連結子会社の東北アルフレッサ株式会社(本社：福島県郡山市、以下「東北アルフレッサ」という。)は、2020年9月、南東北エリアにおける最新鋭の物流拠点として「郡山物流センター」を稼働いたしました。同センターはGDPガイドラインに準拠し、約2万7千品目の豊富な在庫を有するほか、免震構造の採用、72時間稼働の非常用発電機や屋上ヘリポートの設置等により、大規模災害時でも安定的な医薬品供給が可能だけでなく、営業エリアを超えた緊急対応も可能となっております。東北アルフレッサでは同センターを東北地方における物流の中核拠点として活用することで、今後も地域医療に貢献してまいります。

再生医療等製品に関する取り組みとしてアルフレッサは、2020年10月、新たな再生医療等製品の保管・輸送拠点となる神戸再生医療流通ステーションを開設いたしました。同施設は、2018年に同社が神奈川県川崎市に開設した殿町再生医療流通ステーションと同様、液体窒素を用いた設備機器等を導入して超低温(摂氏マイナス150度以下等)の保管・輸送環境を整備し、お客様のご要望に応じた保管・輸送業務をご提供することが可能となっております。同社はこれまで培ってきた再生医療等製品の保管・輸送に関するノウハウを活かして、アルフレッサグループの主要な物流拠点に同様の設備を設置し、再生医療等製品に対応した全国流通ネットワークを構築する予定です。

また、アルフレッサは、2020年11月、特殊医薬品の個別化医療支援^{*2}に関する取り組みとして、PHC株式会社(本社：東京都港区)および富士通Japan株式会社(本社：東京都港区)と個別化医療支援プラットフォーム「NOVUMN(ノヴァムン)」のパイロット運用を開始いたしました。特殊医薬品は、サプライチェーンの全工程で、厳格に温度を管理し、製品一つひとつのトレーサビリティを確立して、適切な在庫量を維持することが製品の安定供給上、重要となっております。

「NOVUMN」では、医薬品に貼付したRFIDタグと紐づけた電子情報(医薬品名、用量、使用期限等)により、在庫数のみならず温度も含めたスマートな在庫情報管理を実現するとともに、IoT(Internet of Things)技術を組み込んだプラットフォームには患者様の治療計画・投与スケジュール等の情報が連動し、医薬品トレーサビリティを一元的に管理することが可能となります。アルフレッサは、PHC株式会社、富士通Japan株式会社とともに業界標準のプラットフォームとして「NOVUMN」の普及を目指し、個別化医療のDX(Digital Transformation)を推進してまいります。

事業領域の拡大を視野に入れたベンチャー企業への投資として、アルフレッサは、当第3四半期連結累計期間において、再生医療等製品の開発および開発製造受託を行うファーマバイオ株式会社(本社：愛知県名古屋市の)、日本発の遺伝子治療技術の研究開発および治療薬の開発、製造などを行う株式会社遺伝子治療研究所(本社：神奈川県川崎市)、オンライン診療システムを医療機関へ提供する株式会社インテグリティ・ヘルスケア(本社：東京都中央区)ならびに慢性心不全を対象とした再生医療等製品の開発を行う株式会社メトセラ(本社：山形県鶴岡市)へ出資いたしました。

あわせて、アルフレッサは、2020年10月、同社の出資先である株式会社Lily MedTech(本社：東京都文京区)との間で、同社が開発する乳房用超音波画像診断装置の日本国内の医療機関に対する総販売代理店契約を締結いたしました。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、薬価改定および新型コロナウイルス感染拡大等の影響による市場のマイナス成長ならびに価格競争の激化等により、売上高1兆7,464億77百万円(前年同期比4.0%減)、営業利益121億39百万円(同60.4%減)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高117億6百万円(同1.0%減)を含んでおります。

※1 出典：「2020最新オール・データ&ランキング」卸グループ別医療用医薬品事業シェア(株式会社ドラッグマガジン)

※2 個別化医療：悪性腫瘍をはじめとする様々な疾病の治療において、特殊医薬品が高い治療効果を発揮するためには、患者様一人ひとりの体質や病気のタイプに合わせた個別化医療が有効であると注目が高まっています。

② セルフメディケーション卸売事業

セルフメディケーション卸売事業におきましては、「トータルヘルスケア・マーチャンダイジング・ホールセラー」を推進し、新たな付加価値による差別化と創造性を持つオンリーワン卸を目指し、「19-21中計」の重点施策として掲げた「安定的かつ持続的な事業基盤の確立」「消費者視点に立った商品提案」「専売メーカー・専売商品の取り組み強化」「将来に向けた投資」「各事業セグメントとの連携強化」に引き続き取り組んでおります。

連結子会社のアルフレッサヘルスケア株式会社(本社：東京都中央区)と同社の完全子会社である株式会社茂木薬品商会(本社：東京都中央区)は、2021年1月、アルフレッサヘルスケア株式会社を存続会社とする吸収合併契約を締結いたしました(効力発生日：2021年4月1日)。今後は両社の経営資源を有効かつ効率的に活用して、経営基盤のさらなる強化を図ってまいります。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染拡大によるインバウンド需要の大幅な減少の一方で、感染予防関連商品の売上増加および物流を起点とした全社改革の推進によるコスト管理や利益管理の徹底等により、売上高2,011億99百万円(前年同期比1.8%減)、営業利益21億84百万円(同16.4%増)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高4億29百万円(同24.0%減)を含んでおります。

③ 医薬品等製造事業

医薬品等製造事業におきましては、グループシナジーの強化とさらなる規模拡大を推進するため、「19-21中計」の重点施策として掲げた「安心・安全・誠実なモノづくりの推進」「グループニーズに沿った製品の拡充」「製造受託・医薬品原薬事業の拡大」「海外事業の拡充」に引き続き取り組んでおります。

「グループニーズに沿った製品の拡充」への取り組みとして、連結子会社のアルフレッサファーマ株式会社(本社：大阪市中央区)において潰瘍性大腸炎の病態把握の補助として製造販売承認を取得し、2019年10月に販売を開始したカルプロテクチンキット「ネスコート® Cp オート」が、2020年5月1日付で保険適用されました。本製品により、従来よりも大腸内視鏡検査の回数を減らし、患者様の身体的な負担だけでなく経済的な負担軽減が期待され、本保険適用を機に、医療機関での潰瘍性大腸炎の診断および治療に貢献できるよう、本製品のさらなる普及に努めてまいります。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う医療機関等の外来受診抑制や手術件数の減少による自社製品の売上減少および医療機関等への営業活動の自粛等の影響により、売上高313億98百万円(前年同期比6.7%減)、営業利益3億57百万円(同76.0%減)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高66億7百万円(同22.9%減)を含んでおります。

④ 医療関連事業

医療関連事業におきましては、「19-21中計」の重点施策として掲げた「機能に応じた店舗の再編」「収益改善を目指した効率化・高度化」「多機能化による地域社会への貢献」「各事業セグメントとの連携強化」を引き続き推進する一方、前連結会計年度に発覚した調剤報酬請求に係る不適切行為の再発防止策を徹底するため、新たな管理ソフトウェアの導入および適正な人員配置等の対策を講じました。

連結子会社のアポロメディカルホールディングス株式会社(本社：東京都豊島区、以下「アポロメディカル」という。)および株式会社日本アポック(本社：埼玉県川越市)ならびに当社の完全子会社の株式会社中日ファーマシー(本社：愛知県名古屋市)は、2021年1月、アポロメディカルを存続会社とする吸収合併契約を締結いたしました(効力発生日：2021年4月1日)。この3社が経営統合することで、調剤薬局事業の強化と効率化を図り、これまで以上にコンプライアンスへの取り組みを強化するとともに顧客視点に立った新たな価値の創造を行える調剤薬局を目指してまいります。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、薬価改定および新型コロナウイルス感染拡大に伴う医療機関の外来受診抑制等の影響により、売上高251億31百万円(前年同期比6.3%減)、営業損失3億46百万円(前年同期は営業利益2億64百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

資産は、前連結会計年度末と比較して706億55百万円増加し、1兆4,222億75百万円となりました。

流動資産は、662億69百万円増加し、1兆1,006億81百万円となりました。これは主として、「受取手形及び売掛金」が517億10百万円増加および「商品及び製品」が179億95百万円増加した一方で、「現金及び預金」が87億53百万円減少したことによるものです。

固定資産は、43億86百万円増加し、3,215億94百万円となりました。これは主として、物流センター等の設備投資などに伴い有形固定資産が60億55百万円増加した一方で、「のれん」等の無形固定資産が15億46百万円減少したことによるものです。

② 負債の部

負債は、前連結会計年度末と比較して637億65百万円増加し、9,404億86百万円となりました。

流動負債は、600億17百万円増加し、8,969億96百万円となりました。これは主として、「支払手形及び買掛金」が746億44百万円増加した一方で、「未払法人税等」が96億58百万円減少および「賞与引当金」が44億26百万円減少したことによるものです。

固定負債は、37億47百万円増加し、434億90百万円となりました。これは主として、独占禁止法関連損失引当金等の「その他」が46億円増加した一方で、「退職給付に係る負債」が6億72百万円減少したことによるものです。

③ 純資産の部

純資産は、前連結会計年度末と比較して68億90百万円増加し、4,817億89百万円となりました。

これは主として、「利益剰余金」が82億74百万円増加した一方で、アポロメディカルを完全子会社化したこと等により「非支配株主持分」が9億56百万円減少および「資本剰余金」が2億98百万円減少したことによるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	210,547	201,794
受取手形及び売掛金	595,353	647,063
有価証券	10	50
商品及び製品	142,896	160,891
仕掛品	1,618	1,462
原材料及び貯蔵品	4,426	4,880
その他	80,225	85,334
貸倒引当金	△665	△795
流動資産合計	1,034,411	1,100,681
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	53,662	64,185
土地	67,178	66,837
その他（純額）	31,337	27,210
有形固定資産合計	152,178	158,234
無形固定資産		
のれん	4,103	3,633
その他	13,518	12,441
無形固定資産合計	17,621	16,074
投資その他の資産		
投資有価証券	128,559	128,124
その他	24,086	23,988
貸倒引当金	△5,238	△4,827
投資その他の資産合計	147,407	147,285
固定資産合計	317,207	321,594
資産合計	1,351,619	1,422,275

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	798,748	873,392
短期借入金	570	349
未払法人税等	10,543	884
賞与引当金	7,513	3,087
その他	19,602	19,282
流動負債合計	836,978	896,996
固定負債		
長期借入金	630	449
退職給付に係る負債	11,764	11,091
その他	27,347	31,948
固定負債合計	39,742	43,490
負債合計	876,720	940,486
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	101,958	101,660
利益剰余金	317,752	326,027
自己株式	△29,368	△29,369
株主資本合計	408,797	416,772
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66,901	66,889
繰延ヘッジ損益	△0	△0
土地再評価差額金	△3,658	△3,641
為替換算調整勘定	65	61
退職給付に係る調整累計額	1,597	1,468
その他の包括利益累計額合計	64,905	64,776
非支配株主持分	1,196	239
純資産合計	474,898	481,789
負債純資産合計	1,351,619	1,422,275

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	2,062,854	1,985,463
売上原価	1,908,878	1,854,139
売上総利益	153,976	131,323
返品調整引当金戻入額	678	634
返品調整引当金繰入額	648	561
差引売上総利益	154,006	131,396
販売費及び一般管理費	119,461	116,531
営業利益	34,544	14,865
営業外収益		
受取利息	64	45
受取配当金	1,850	1,788
受取情報料	4,724	4,568
その他	1,922	2,460
営業外収益合計	8,561	8,862
営業外費用		
支払利息	73	64
持分法による投資損失	1,037	—
不動産賃貸費用	169	150
その他	281	82
営業外費用合計	1,561	298
経常利益	41,544	23,430
特別利益		
固定資産売却益	86	45
投資有価証券売却益	485	9,440
特別利益合計	572	9,485
特別損失		
固定資産売却損	198	5
固定資産除却損	120	99
減損損失	69	140
投資有価証券評価損	32	5
独占禁止法関連損失引当金繰入額	—	4,567
その他	46	17
特別損失合計	467	4,837
税金等調整前四半期純利益	41,650	28,078
法人税、住民税及び事業税	17,927	8,188
法人税等調整額	△4,331	796
法人税等合計	13,596	8,984
四半期純利益	28,053	19,094
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	27,995	19,084
非支配株主に帰属する四半期純利益	57	9

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,172	△12
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	△40	△3
退職給付に係る調整額	△296	△128
持分法適用会社に対する持分相当額	15	—
その他の包括利益合計	10,850	△145
四半期包括利益	38,903	18,949
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	38,845	18,939
非支配株主に係る四半期包括利益	58	9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症に関する会計上の見積り

新型コロナウイルスの感染拡大は、経済や企業活動に広範な影響を与える事象であり、当社グループにおきましても、得意先である医療機関における患者様の受診抑制や手術件数の減少および営業活動の制限等、厳しい事業環境となっており当社グループの業績に一定の影響が及んでおります。

新型コロナウイルス感染症の収束時期やその影響の程度を、現時点において入手可能な情報および合理的であると判断される一定の条件に基づき、今後、2021年3月期の年間を通じて当該影響が継続するものと仮定して、固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

なお、当該見積りに用いた仮定には不確実性があり、新型コロナウイルス感染症の収束時期および経済環境に変化が生じた場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報)

1. 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,806,645	204,293	25,095	26,820	2,062,854	—	2,062,854
セグメント間の 内部売上高又は振替高	11,826	564	8,571	—	20,962	△20,962	—
計	1,818,472	204,857	33,667	26,820	2,083,817	△20,962	2,062,854
セグメント利益又は損失(△)	30,665	1,876	1,486	264	34,293	250	34,544

(注1) セグメント利益の調整額250百万円には、セグメント間取引消去228百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用22百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,734,771	200,770	24,790	25,131	1,985,463	—	1,985,463
セグメント間の 内部売上高又は振替高	11,706	429	6,607	—	18,743	△18,743	—
計	1,746,477	201,199	31,398	25,131	2,004,206	△18,743	1,985,463
セグメント利益又は損失(△)	12,139	2,184	357	△346	14,334	530	14,865

(注1) セグメント利益の調整額530百万円には、セグメント間取引消去385百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用144百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。